

衆議院議員

木原せいじ

国会活動報告書

せいじ便り 18号



揺るぎなき挑戦!!

短期的な景気対策は
本当に悪い「ジョブ」でしょうか？

「短期的な景気対策はけしからん」との声が一部にあります。しかし、経済が民間部門の需要不足で停滞しているときに、官が不足を少しでも補うため景気対策を行うのは当然のことです。また、埋蔵金といわれる特別会計の積立金や国有財産の売却益など、一回使ってしまったら何度も使えない財源は、**景気対策にこそ有効活用すべき**ものです。このため、政府・与党として、先般、「生活対策」としての景気対策を発表したところです。民主党は、「短期のバラマキ」と批判していますが、民主党が主張する20兆円を超える「**長期間のバラマキ**」は、全く論外です。

2兆円の給付金は本当に
悪い「ジョブ」でしょうか？

景気対策を行う場合、かつては、政府が、公共事業を中心に、恣意的にお金の使い道を決定し、時として**無駄な道路やハコモノ**を残す結果を招いてきました。むしろ、元々皆様からいただいた**貴重な税金**です、その税金を、「定額給付金」として国民の皆様**に一端お返しし**、使い方はそれぞれのご判断にお任せすることの方が適切な場合があります。お孫さんに玩具をかう方もいけば、家族で食事に行かれる方もいらつしやるでしょうし、もちろん貯金に回す方もいらつしやるでしょう。しかし、貯金に回ったからといって経済的に効果がないわけではありません。貯金が増えること自体が**安心に繋がって**いくからです。ちなみに、「4

人世帯で僅か6万円では何の足しにもならん」といった発言をされる方もいらつしやいますが、厳しい経済実態を全く反映していない議論ではないでしょうか。

総理や大臣・党幹部はしっかりしろ!!

なお、給付方法や所得制限の在り方などを巡って、政府内に**迷走**がありました。責任ある方々が、**立場やタイミングも選ばず**に、思い思いに発言する。こんなことは止めるべきです。また、渡辺喜美元大臣や塩崎元官房長官などと共に活動している会を中心に、第二次補正予算の早期提出を引き続き求めてまいります。

財源論こそ重要!!

政府・与党は、今後3年間で徹底した景気対策を実行していくことを約束しています。しかし、短期的な景気対策だけでは成長軌道に乗りません。**中長期的な内需拡大**が不可欠です。そのためには、**将来不安を解消**しなければなりません。最大の将来不安は、年金・医療・介護の社会保障への不安です。社会保障の機能強化と持続可能性を同時に図る必要があります。

そのために、政府の**社会保障国民会議**が先般試算を行い、今後の社会保障制度の充実に向けた必要財源の規模を消費税率に換算して発表しました。総理も、景気回復後の消費税率改革を明らかにしました。消費税は、世代に中立的で、景気変動にも比較的

影響を受けません。したがって、消費税を社会保障の財源に充てるのは理にかなっていません。いったん皆様から消費税としていただいたお金を、全額社会保障支出としてお戻しするということです。

ところが、野党はどうでしょうか。全農家に所得補償、年金は全て税金で、高校まで義務教育化、高速道路は全額無料、子供手当で倍増などなど、**20兆円の長期的なバラマキ**を提言しながら、全く財源を示していません。仮に政権交代が起こった場合、野党が公約を真面目に実行しようとすれば、大規模な増税を行わなければならなくなります。停滞する経済は壊滅的な影響を受けます。

かつて、細川政権時代に、小沢一郎さんが主導して、夜中の記者会見で何の前触れもなく突然「国民福祉税構想」という**大増税構想**をぶち上げ、細川政権を崩壊させたことが思い出されます。

民主党の主張する200兆円の1割カットは本当に可能なのか？

なお、民主党は、財源として、国の一般会計と特別会計の両方を加えた212兆円の歳出の1割カットを提言しています。しかし、212兆円のうち、67兆円は年金・医療・介護の社会保障支出、88兆円は借金返済の支出、17兆円は地方への支出（これも多くは医療や教育のための支出です）です。いずれも、カットができないものばかりで、これだけで**全体の8割を超える172兆円**になります。

残り2割の40兆円から20兆円を捻出しようとするれば、1割カットではなく、**実際は5割カット**が必要になります。防衛費、中小企業対策費、教育費、これらを現在の**水準から半分**にするというのででしょうか。

無駄撲滅は全ての前提

いずれにしても、まずは、無駄遣いの撲滅が大前提です。無駄遣い撲滅チームの事務局長補佐、道路関連法人改革チームの主査として、無駄撲滅に携わってききました。「**やみ専従**」などの犯罪行為には厳格に、マジチエア購入など明白な無駄遣いは、直ちに停止します。こうしたキメ細かな取組みに加えて、**三大改革**を行う必要があります。

第一に、**公益法人改革**。税金からの支出が大半で、それがなければ存続できない法人や、役員の大半が天の下の法人などは、**原則廃止**します。

第二に、財務省改編・予算制度改革。いったん予算がつくと、成果も検証されずに、長年続くものがあります。財務省主計局を予算査定局と予算監査局に分割して、事後チェックを徹底するほか、**複数年度予算**を導入し、2、3年目に監査を集中的に行うサイクルにあらためます。

第三に、**国会議員定数の大幅削減**、議員世襲について同一選挙区からの立候補制限などに取り組みます。



行財政改革に積極的に取り組む決意

木原せいじ事務所

■**国会事務所** 〒100-8982
東京都千代田区永田町2-1-2
衆議員第2議員会館606号室
TEL: 03-3508-7606
FAX: 03-3508-3986

■**地元事務所** 〒189-0013
東京都東村山市栄町2-22-13
松岡ビル2階
TEL: 042-392-4105
FAX: 042-392-4106



**木原せいじ公式
モバイルサイト**
http://kiharaseiji.com/k/
携帯電話から木原せいじモバイルにつながります。

ボランティアを募集しています!

事務所内における事務、ポスター貼り、各種広報物の配布などお手伝いいただけるボランティアを募集しています。どんな事からでもかまいません。政治に興味があって、木原誠二の政治活動を手伝ってみたいと思われる方は是非ご連絡ください。



国会見学に行きませんか?!

木原せいじ事務所では、随時、国会見学を受け付けています。友達や仲間とお誘い合わせの上、是非ご来館ください。少人数からでもお気軽にご相談いただければ結構です。テレビで報道される国政の生の現場をご案内します。



**木原せいじ
プロフィール**

- ・私立武蔵中学・高校、東京大学法学部卒業
- ・大学時代はテニスで全国選抜3位
- ・平成5年大蔵省(現財務省)入省、主計局、大臣官房、国際局課長補佐、税務署長歴任
- ・その間、英国大蔵省出向(初代)
- ・平成17年9月 衆議院選挙当選
- ・現在、厚生労働委員会、内閣委員会、拉致特別委員会、各委員。党では、国際局次長、青年局次長、女性局次長、学生部参与。
- ・趣味はテニス・ピアノ・散歩。座右の銘「至誠通天」。
- ・著書「英国大蔵省から見た日本」(文春新書)

